

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院だより

いこいの森

患者さまを中心として、質の高いかつ安全な医療を提供します

開院 30 周年を迎えるに当たって

事務部長 清水 宏泰



当院は平成 29 年 5 月 25 日をもって、昭和 62 年の開院から 30 周年を迎えます。

横浜市による「よこはま 21 世紀プラン」のなかで、横浜市西部地区の地域中核病院としてこの地に誕生して、早や 30 年の年月が過ぎようとしています。

現在、厚生労働省の指導により各都道府県を主体にした「地域医療構想」が進みつつあります。

これは、日本の社会が超高齢化社会を迎えるに当たり、医療の機能に見合った資源の効果的かつ効率的な配置を促し、患者さまが状態に見合った病床で、状態にふさわしい、より良質な医療サービスを受けられる体制を作ることを目的としたものです。各地域において医療を「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の 4 つの機能に分け、さらに、その地域の中で病院、診療所、行政(神奈川県や横浜市)、老人施設等の介護系施設も協力して、高齢の方も住み慣れた地域において、状態にあった医療を受けられるように協力して、医療・介護を行なっていくというものです。

その「地域医療構想」の中で、横浜市西部地域の中心として地域の医療に貢献していくために、30 周年の節目の年に、全職員が決意を新たに丸となって取り組んでいきます。

人命救助に対する病院長特別表彰

当院の救命救急センター看護師 3 名が職務時間外において、倒れていた通行人に対して A E D を使用した除細動実施などの適切な蘇生術を施し、人命救助を行いました。



昨年某日、市内を歩いていた 3 名は歩道に倒れていた男性に遭遇しました。近くにいた人が救急車を呼んでいましたが、動揺してか状況を上手く伝えられていなかったため、電話を交代して状況を伝えるとともに、心肺停止状態のため、周囲にいた人達の協力を得て、胸骨圧迫を開始しました。救急隊から近くの銀行に A E D があるとの情報を受け、A E D 到着後、除細動を施行しましたが自己心拍は再開せず、救急隊到着まで胸骨圧迫を続けました。救急隊引継ぎ後、男性は心拍が再開し、病院に搬送されました。数週間後、男性は無事に退院し社会復帰されました。当院の職員が周囲の人達と協力・連携した結果が男性の回復に繋がったことは、喜ばしいことであり、病院長から特別表彰が贈られました。

シリーズ
部署
紹介 # 10
病歴部

病歴部では入院患者さまの診療録（カルテ）を管理しています。

診療録管理の主な目的には①治療・予防の指針
②医療従事者の教育資料③疫学調査の基礎④法的
保護の資料⑤病院の医療評価などがあります。

そして、管理には「物としての管理」「情報としての管理」があります。
物として⇒退院された患者さまの今後の診療に役立つよう、カルテを整備しています。
情報として⇒診断名や手術名に、国際的に定められたコードをつけて分類し、症例検索や統計
を行います。

2016年1月から「全国がん登録」制度（*）が始まり、その登録業務も行っています。

（*がんと診断された患者さまの情報を国が集計・分析・管理する仕組み）

紹介しきれない業務もありますが、開院以来23万冊余りの紙の入院診療録とたくさんの
情報は、4名の診療情報管理士と3名のパート職員で、患者さまのために大切にお預かりして
います。

病歴部 診療情報管理士 粟生知恵子



看護週間のイベントを開催します

5月12日は、近代看護の礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日
です。この日を挟んだ1週間は、「看護週間」として全国で様々なイベントが開
催されています。神奈川県看護協会も毎年「かながわ看護フェスティバル」とし
て、多くの施設がイベントに参加しています。当院でも、毎年5月に実施し、近
隣地域の多くの方に参加していただいております。平成29年度は、5月11日（木）・
5月12日（金）の2日間に実施する予定です。血圧・体脂肪測定、栄養・お薬相
談、ミニレクチャー等々、現在、企画を検討中です。



西部病院は、横浜市の地域中核病院として今年で
開院から30年を迎えます。この30年の中で地域
を取り巻く環境は変化してきていますが、これまで
以上に地域との「繋がり」を大切にし、信頼される
病院でありたいと思っています。イベントを通して、
地域の皆様との交流をはかり、看護の仕事を知って
いただけたらと思っています。

副院長・看護部長 伴 真理子

移植医療について

移植医療は病気や事故によって臓器が機能しなくなった人に、他の人の健康な臓器を移植して、機能を回復させるというものです。国内で心臓や肺、肝臓、脾臓、腎臓、小腸の移植を希望して日本臓器移植ネットワークに登録している方は13,000人以上います。対して死

後の臓器提供は2016年の1年間で96件に留まっています。このようにわが国では、死後の臓器提供が少ないため、健康な家族から臓器を提供してもらい移植を受ける生体移植が多い傾向にあります。が、これは健康な人の身体にメスを入れるという弊害もあります。

臓器の提供と移植には、人によって色々な考え方がありますが「提供する権利・しない権利」「移植を受ける・受けない権利」のいずれも尊重されなければなりません。当院は脳死下臓器提供可能施設であり、患者さまのご希望に沿えるよう体制を整えています。意思表示カードは受付書類記載テーブルに設置しています。一度、お手に取ってご覧ください。



医療安全管理室
課長補佐 吉野 茂

AED講習（院内BLS研修）について

当院では全職員を対象にAEDを含めた一次救命処置（Basic Life Support）の実技研修を行っております。AED（Automated External Defibrillator）とは自動体外式除細動器といい、突然心臓のリズムに異常を起こし倒れた場合に、電気ショックを与えることにより心臓が再び正常な働きを取り戻す補助をする機器です。誰かが倒れた時、その場に居合わせた人がすぐに心肺蘇生やAEDによる除細動を実施した場合には、実施しなかった場合に比べて生存率や社会復帰率が明らかに高いことが分かっています。そのため、院内で緊急事態が発生した時など、その場に居合わせた職員が適切な対応ができるように、医師・看護師だけではなく、全職員を対象に実技トレーニングを行っております。一次救命処置は、一般市民向けにも手順が紹介されていますのでご存知の方も多いのではないのでしょうか。

知識だけでは人は救えません。定期的にトレーニングを行うことで、西部病院の全職員が安全で質の高いスキルを発揮できるように今後も継続して取り組んでまいります。



医療安全管理室
看護師長 橋本 礼子

人間ドック お申し込み受付中

あなたの誕生日



その特別な日に、人間ドックを受けてみてはいかがでしょうか？

健康管理部

お問い合わせ

045-366-1111（代表）

（平日 8:30～17:00）



総合相談部からのお知らせ

総合相談部では、入院中、または外来診療中の患者さま、ご家族のご相談を承っています。ご相談内容については、秘密を厳守します。どうぞ、お気軽にご相談下さい（ソーシャルワーク係、ホームケア係は、事前にご予約をお願いします）。内容は、以下の通りです。

【ソーシャルワーク係】利用できる社会保障・サービス・病院や施設のことを相談したい、医療費や生活費が心配、転院の相談、など。

【ホームケア係（看護相談など）】介護の仕方が分からない、訪問看護を受けたい、など。

【地域医療連携係】近くの医院やクリニックを探したい、紹介状について知りたい、など。

【総合案内】受診の手続きを知りたい、院内のことについて知りたい、など。

【患者さま相談窓口】ご意見、ご要望があればお聞かせ下さい。

総合相談部の場所：

- ・ソーシャルワーク係、ホームケア係(1階正面玄関横)
- ・地域医療連携係、患者さま相談窓口(1階産婦人科外来横)
- ・総合案内(1階正面玄関)



当院は原則として「**初診紹介制**」となっています。初めて受診されるときは、地域医療機関（かかりつけ医等）からの「紹介状」をお持ちください。初診時に予約制を実施している科もあります。詳しくは、院内のチラシ、ホームページまたは、総合案内、地域医療連携係へご確認ください。

【当院の休診日】 日曜日、国民の祝日、第1・3土曜日、開学記念日(10月第2土曜日)、
年末年始(12月29日～1月3日)

発行：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 地域広報小委員会
〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1197-1 TEL：045-366-1111(代)

次回(第47号)は、平成29年7月1日発行予定です。